

日本作業科学研究会ニュースー作ら，さくらー第12号



発行年月日 2012年8月25日
発行者 日本作業科学研究会広報係
ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

残暑お見舞い申し上げます。

JSSO会員の皆様には、暑い夏をどうにか凌いでいらっしゃると思います。水の音に癒され、木陰の涼しさを再確認しています。

去る7月に行われた総会により、JSSOは新役員の体制となりました。また、研修会の企画も承認されております。

第8回作業科学研究会総会報告

1. 日時：平成24年7月15日（土）12：00～12：30

2. 場所：札幌医科大学臨床講堂

3. 議長：今井忠則（茨城県立医療大学）
副議長：伊藤文香（茨城県立医療大学）
書記：野口卓也（わに診療所）、紫村允明（東松山病院）

議事録署名人：高木雅之（県立広島大学）、
福田久徳（賀茂台地訪問看護ステーション）

4. 足数報告（県立広島大学 古山千佳子）
・平成24年7月15日現在の会員数（23年度会費納入者）193名。総会参加57名、委任状提出40名、合計97名で総会が成立した。

5. 議案

1) 第1号議案 平成23年度（2011年7月～2012年6月）事業報告（古山）

2) 第2号議案 平成23年度（2011年7月～2012年6月）決算報告・監査意見書（古山。監事報告：西上）

3) 第3号議案 平成24年度（2012年7月～2013年6月）事業計画及び予算案の件（報告：港）

→上記1)～3)について、質疑意見はなく、圧倒的多数で賛成し可決した。

4) 第4号議案 役員選任の件（報告：藤原）
→平成24年度役員選挙（平成24年4月15日付公示、平成24年5月15日締め切り）を実施し、無投票当選となることが報告された。

5) 第5号議案 その他（港）

① 次期作業科学セミナー大会長承認の件→次期作業科学セミナー大会長として斎藤祐樹氏（福島県）が推薦され、圧倒的多数で賛成し可決した。

② その他→西方浩一より、メーリングリストが開始され参加をお願いする旨の提案がなされた。

平成24年度役員選挙結果

選挙管理委員会 藤原瑞穂

平成24年4月15日付で公示しました平成24年度役員選出について、立候補を平成24年5月15日付（消印有効）で締め切ったところ、理事、監事とも立候補者数が定数と一致しましたので、全員が無投票当選となりました。立候補者の意見表明はHPに原文掲載されていますので、是非ご覧ください。





第15回作業科学セミナーの報告

第16回作業科学セミナーを終えて

札幌医科大学

坂上真理

去る2012年7月15・16日、札幌医科大学（北海道、札幌市）で第16回作業科学セミナーが無事に開催されました。今回は、全国の会員・非会員のほかに、香港を含めた合計202名の参加者があり、まさに全国の作業科学に架け橋をつなぐセミナーとなりました。本セミナーは、作業療法や他の学問領域との一層のつながりを図ることを意識しながら企画させていただきました。2日間には、作業や作業的存在の知識とその研究過程、作業の知識を活用した実践の報告、作業や作業的存在の理解を深めるための方法論、フォトボイスを用いた現象の理解や問題解決の過程、作業科学の歴史と今後への視座が盛り込まれました。特に、今回のセミナーでは、現象の作業的理解に留まらず、随所にその応用方法に関する提言があったことが特徴的でした。アンケート

結果も好評であり、研究者、実践者、教育者、学生といった多様な立場（*scholar!?*）の参加者にとっても、作業や作業科学のヒントを得ることができたのではないかと思います。プログラム中、作業について、“知りたい”、“語りたい”という参加者の熱気を感じる場面も多々ありました。懇親会では、港美雪会長の発案で、急遽、全国で開催されている11カ所の勉強会も紹介されました。作業科学からの架け橋を強化するためには、大学院のほかに、勉強会のような濃いディスカッションができる場が不可欠です。JSSOでは全国の勉強会を一斉に紹介することは始めてだったのですが、今後の立ち上げや、勉強会同士の交流のきっかけになったと思われます。このような全国各地での展開や、作業療法士の参加の多さは日本の作業科学の特徴とのことで、基調講演をしていただいたPierce先生にとってもかなり印象深かったようでした。組織作りの点で参考になったと言っていたことに感激した反面、日本の作業科学の展開を広く伝えていく必要性も感じました。

また、本セミナーでは「福島作業科学セミ



ナー開催支援事業」を併せて行いました。多くの方々にご賛同いただき、クリアファイルはなんと561枚販売。39,270円の収益がありました。葉山靖明さんの書籍販売の収益とあわせ、合計64,870円を福島県作業科学セミナーの運営資金として寄付させていただきます。ご協力いただいた皆様、プロジェクトメンバーの皆様、ありがとうございました。なお、クリアファイルは、2枚500円にて引き続き事務局（総務）にて販売いたします。ご購入希望の方は、secretariat@jssso.jp (担当:坂上)までご一報ください。

セミナー終了後は、時間が許される方々と一緒に、恒例となった全体写真も撮影しました。実は、今回の会場は、日本の作業科学に多大な貢献をされた故佐藤剛先生のお別れ会の開催場所でもあります。写真には、佐藤先生と同じように、日本の作業科学を支え、今も支えてくださっているZemke先生や、初期の頃から参加されている多くの方々、最近参加されるようになった方々が写っていて、まさに“蓄積”と“これからへの架け橋”を醸し出す1枚になったのではないのでしょうか。

最後になりましたが、ご講演をいただいた皆様、参加者していただいた皆様、本当にありがとうございました。私にとっては、こんな大きな作業は初めてだったのですが、支えてくださった実行委員の皆さん、お疲れ様でした。



作業科学セミナー実行委員報告

札幌北訪問看護ステーション 森元彩子

札幌で作業科学セミナー開催が決定したのは何年前だったのでしょうか。その頃から私達の札幌のOS勉強会では、「Tシャツは北海道らしくウシ柄模様になりたい!」「BGMに松山千春を流そう!」などと皆で妄想を膨らませて盛り上がっていました。その頃は自分達が実行委員になるという実感がまだありませんでしたが、何となく“楽しそう”“やってみたい”とワクワクドキドキしていたことを覚えています。

第16回作業科学セミナー実行委員会は、実行委員長の坂上先生を中心に、“とにかく楽しもう!”をモットーに掲げて準備を進めました。色々大変なこともありましたが、皆が楽しみながら、ほんわかとした雰囲気を進めてこられたように思います。OSセミナー当日は、全国各地から約200名という多くの方々に参加して頂き、また、私が主に担当していた懇親会にも100名近くの方々にご参加頂きました。懇親会では今回のテーマである“架け橋”を意識し、遠く沖縄の方々とのコラボを企画しました。沖縄の皆さんに作成して頂いた歌の動画がこれまた素敵で面白い!北海道民がうなるほどのソーラン節でした。今でもたまに自宅で動画を再生して楽しませてもらっています。また、港さんのご提案で全国

各地のOS勉強会の紹介コーナーを設けることができたり、西上さんと村井さんには息ピッタリの締め乾杯挨拶をして頂いたり、大々盛況に終えることが出来ました。今、OSセミナーを終えての私の感想は、「とにかく楽しんだ〜!」です。たくさんの人達の素敵なアイデアや出会い、ご協力があったからこそ、このように楽しむことが出来たと思います。本当にありがとうございました。

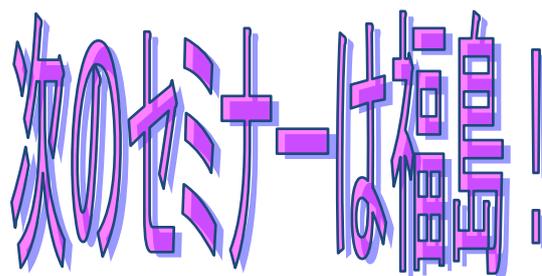
作業科学セミナー感想

医療法人香流会 絢仁病院 高木信也
今回作業科学セミナーに初めて参加しました。この春から作業科学を学び始めた段階での参加で、(話についていけるだろうか)と不安な気持ちで札幌の地に降り立ちました。そんな中、空港で港先生・西野先生と偶然お会いし、札幌までご一緒させていただくことになりました。電車の中でいろんなお話をさせていただき、楽しい道中となりました。セミナー当日は緊張しながら会場である札幌医科大学に到着しました。正直なところ堅苦しい雰囲気を想像していたのですが、スタッフの皆さんも元気いっぱい、和気あいあいとした、初めての人も参加しやすい雰囲気でホッとしました。

一日目は佐藤剛記念講演から始まり、演題発表、ワークショップと盛りだくさんの内容で、話についていくのに必死で、あっという間に一日が過ぎてしまいました。佐藤剛記念講演では、近藤先生と実際に障害を持たれながら活動されている葉山氏のお話があり、考えさせられるものがありました。一日目最後のワークショップでは、グループごとに参加者が持ち寄った作業について、形態・機能・意味を、写真を見ながら実際にインタビューを通じてまとめていくという作業を行いました。聞き出すことの難しさに気付かされた

共に、何気ない作業にも様々な意味があることを改めて実感させられました。二日目も特別講演、基調講演、シンポジウムと息つく暇なくプログラムは進んでいきました。ドリス・ピアス先生やルース・ゼムケ先生のお話では、作業科学の歴史や、作業とはなにか、作業科学とは何かについて説明いただき、作業科学への興味がさらにわいてきました。

今回のセミナーは、初心者の方にとっては難しい内容が多かったですが、それでも作業科学を学ぶことの楽しさ、また作業科学の奥深さに触れることが出来たと思います。作業療法士として2年働いてきて、様々な対象者に接してきました。その中で、(対象者にとって自分の介入は本当に必要なのか)(この介入は対象者にとって意味があるのか)といった思いが常に付きまどってきました。今回のセミナーでは、今後作業科学に対する理解を深め、そのような悩みに対する答えを見つけたいという気持ちが深まりました。今回は知識も少ない状態でのセミナー参加で、話についていけない部分もありました。今後は作業科学の知識を深めていくよう精進していきたいと思っています。



次回実行委員長よりの御誘い

(財)太田総合病院附属太田熱海病院
齋藤佑樹

涼風の頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日の札幌セミナーでは有意義な時間を過ごされたと思います。札幌セミナーが終わったばかりですが、私たち福島セミナー実行委員は、すでに次期セミナーの準備を開始しております。今年は福島県作業科学研究会も発足

し、着々と福島県にも作業科学の熱い風が吹きつつあります。来年のセミナーでは、演題数を増やし活発な意見交換の場を増やし、福島独自の企画も充実させて皆様をお迎えしようと思えます。私たちは、震災で大きな被害を被った福島こそ、「作業的存在としての人間の健康」を考える最高の舞台であると自負しております。福島セミナーの詳細は、近日中にご報告できる予定です。2013年の暮秋、皆様の沢山の御参加をお待ちしております。

シリーズ **作業を考える@東北**

東北大震災から2度目のお盆を過ぎました。ニュースでは、震災後初めて墓前を訪れることができたインタビューに語る方がいました。そのわきには倒れたままの墓石が映っていました。また、九州を中心とした集中豪雨といった自然災害にも心が痛む限りです。

皆さんは、そこに生活していた人たちの作業をどのように考えますか。これらについて、内省し、人と話しませんか。投稿もお待ちしております。

東日本大震災を経験して

東北文化学園大学
半沢 正道

2011. 3. 11, 東日本大震災が起きた日、私は宮城県I市の総合病院で働いていた(2012. 3月まで)。海岸からは約4.8km離れていたが、想定外の津波は病院の約1km手前まで到達していた。ライフラインが断絶され、テレビや電話が繋がれば得られるはずの情報の把握は困難だった。院内のクライアントへの対応等に無我夢中で、甚大な被害の状況を把握できたのは翌日以降だった。見慣れた風景は一変し、目の前の光景に言葉がでなかった。以降、津波によって被災したクライアントと接する機会が多くなった。住み慣れた家屋や環境を失い、仮設住宅や他の住

居へ移住したクライアントは作業バランスが崩れ、新たに適応する必要がありました。私は訪問リハビリの中で、作業がクライアントにとってどのような意味を持つのか、どの作業が適しているかに注目し、その人にとって身近な作業、意味のある作業の再獲得を支援することで、自分らしい生活を再構築していったクライアント(時には家族も含めて)を経験することができました。上手く文章では表現できませんが、震災により多くのことを失った(失いかけた)ことで、改めて大切な作業は何かと気づくきっかけとなったと思います。クライアントにとって大切な作業をすることで自分を取り戻し、健康を回復させていく過程は、作業療法士が作業の力、作業の広がりを実感する機会にもなったと思います。

震災から約1年半が経過しても、まだまだ復興には時間が必要です。作業をできるようにすることが作業療法士の役割であり、これからも向き合っていかなければなりません。

理事会議事録

平成23年度 第4回日本作業科学研究会理事会

日時:平成24年6月16日(土)18時~

場所:ホテルメリージュ(宮崎県宮崎市)

出席者:港, 西方, 酒井, 青山, 近藤, 小田原, 村井, 斉藤, 古山, 坂上

【議題】

I. 報告事項

1. 啓発・国際情報班

Dr. クラーク論文の翻訳をJSSOサイトに掲載. 2. 機関誌

・6巻は年内に発刊予定. 査読の流れを作成. 印刷所を検討中.

3. 広報

・JSSOニュースを発行し, JSSOに掲載済み. J0S18

(1)の抄録の翻訳を終了. ・メーリングリスト開始.

現在参加人数61名. 札幌OSセミナーと併せて福島作業科学セミナー開催支援事業を行う

4. 日本作業科学研究会
・組織体制を学術(啓発・国際情報, 研究推進, 実践)につなげる, 機関誌), 広報, 特設, 選挙管理.

5. 事務局

・選挙結果: 無投票当選. HPに公開済み.

6. 第16回OSセミナー

・参加者募集は県土会のHPに掲載.

7. 17回OSセミナー

・福島県で開催. 準備開始. 現地代表は斉藤, 宗像.

開催時期は10月~11月, 会場を検討中.

II. 事業計画

1. 啓発・国際情報

・2012年度に論文をもう1つ掲載予定. JOSの論文抄録をJSSOサイトに掲載, 作業科学関連用語集, 文献リストの作成を予定.

2. 機関誌

・年1回発刊. 投稿規程. 引用文献の書き方を一部変更→APAに従うことで暫定的に決定.

3. 研究推進班

研究につながる研修会を予定.

4. 実践につながる

・研修会を1回実施する. 24年度は, 12月を検討.

3. 広報

・年2回のニュース・メーリングリストはトピックを検討.

4. HP

・IT管理者, サーバーの変更なし. 講師リストを作成しHPに掲載~国際と連携して行う.

5. 事務局

・総会準備を行う.

平成24年度第1回日本作業科学研究会 理事会 議事録

日時: 平成24年7月14日

場所: ホテル ザ・ハミルトン札幌(札幌市中央区)

出席者: 港, 村井, 青山, 西方, 小田原, 西野, 西上,

坂上

【議題】

1. 総会に向けて

1) 議事団の選出と役割分担, 進め方の確認

→機関誌編集委員班に関して, 投稿規程が一部変わる予定→HPや第6号の機関誌で知らせる旨を伝える. その他の中で, 広報ネットワークからメーリングリストの参加者を募る.

2. OSセミナー演題採択・発表のあり方

抄録では, 以下の内容と形式を求める方向で, 今後も継続審議する.

→内容: 研究疑問・意義, 方法, 作業科学の知識の発展に貢献する・新規性がある

→形式: ①事例報告: 作業が中心になっている・はじめに(意義と目的がかかっている)・実践紹介(経過が書かれている)・考察(作業の視点で述べられている) ②作業科学研究: ①はじめに(目的と意義がかかっている)・方法(方法論が明確. 対象・データ収集・分析・質の担保)・結果・考察

以上

平成24年度 第2回日本作業科学研究会理事会 議事録

日時: 平成24年7月16日(月) 14:00~16:00

場所: 札幌医科大学保健医療学部506号室

出席者: 港, 近藤, 青山, 小田原, 酒井, 西方, 西野, 坂上, 葉山, 吉川, 宗像, 村井, 古山

【議題】

1. 退任理事・監事と新理事・監事の紹介

2. 会長, 副会長の選出

会長: 港美雪氏

副会長: 酒井ひとみ氏, 西方浩一氏

3. 作業科学セミナー投稿規程および査読

①英文抄録は採択後に提出する.

②査読者3名. 従来通り, 3名中2名以上が採択の場合, 採択, 3名中2名以上が不採択の場合, 不採択.

③以下のようにし, 継続審議していく.

演題は作業に焦点をあてたものとする.

研究: 1)はじめに(目的, 意義), 2)方法, 3)結果,

4)考察

実践報告: 1)はじめに(目的, 意義), 2)実践の紹介(経過を含む), 3)考察

④福島の作業科学セミナーから, 上記の投稿規程で演

題を募集.

4, 担当委員と平成24年度の事業内容の確認

啓発・国際情報班(担当:小田原, 坂上)

①作業科学論文の抜粋の和訳をJSSOのホームページに掲載

②JOS論文の抄録の和訳をホームページに掲載するため, 和訳の分担を理事に依頼する.

実践につなげる班(担当:西野, 港, 西方, 西上)

作業科学を実践につなげる研修会の開催→平成24年12月16日(日)に決定. 社会医学技術学院にて開催する予定. 内容等はこれから準備する.

研究推進班(酒井, 近藤)

OSに纏わる研究法を学ぶための研修会の開催

第17回作業科学セミナーや他研修会と重ならないように配慮し, 日時, 場所, 内容等を決定する.

広報・ネットワーク委員会(西方, 西野, 上江州, 酒井)

ホームページ担当(西方): ホームページに他の勉強会とのリンクをはる.

研究会ニュース担当(西野): 日本作業科学研究会ニュース「作ら, さくら」を平成24年8月25日に発行する.

メーリングリスト担当(上江州): 会員の意見を反映させる

セミナー開催サポート(酒井): 第17回作業科学セミナーの開催・準備の支援を継続.

事務局(総務担当:坂上, 会計・その他担当:古山, 西上)

①事務局業務を総務担当(坂上氏), 会計・その他担当(古山氏, 西上氏)に分担.

②公文書が必要な場合は, 総務担当(坂上氏)に連絡.

機関誌編集班(青山, 吉川, 向井, 高木, 村井)

①機関誌「作業科学研究」第6巻1号を平成24年12月に発行する予定. 原稿締め切り10月末日予定.

②第15回作業科学セミナー(三原市)の特別講師に加えて, 第16回作業科学セミナーの特別講師にも原稿を依頼する. 10月末日締め切り予定.

③コラムを作成し掲載する. 内容は, 作業的存在と

しての理解が深まる対象又は作業科学の学術的發展に貢献する対象のOccupational Profileやインタビューなどを掲載.

学術研究会(第17回作業科学セミナー実行委員会: 齋藤, 宗像, 酒井)

①第17回作業科学セミナーの会場費が高額となった場合, 日本作業科学研究会が費用を補助する.

②開催時期は10月~11月を予定.

③佐藤剛記念講演の講師を現在検討中.

④演題募集について

募集開始の時期を締め切りは約7か月前に設定する. 早目に広報を開始する.

その他

①議題に応じて理事会の開催回数増加を検討.

②次々期(平成26年度)作業科学セミナーを大阪(実行委員長酒井ひとみ氏)にて開催する予定.

以上

JSSOのMLが開始しました。
ぜひご参加ください。

これまで日本作業科学研究会は, JSSO ニュースとJOS翻訳を通して会員に貢献してきました. 今回は2012年4月から新たに運用を開始したメーリングリスト, JSSO-MLについて紹介します.

8月の時点で参加者は約70人となっており, 会員による発信は100件を超えました. 導入までに近藤理事, 西方理事を中心に会議には6ヶ月を費やし, 規定を作成する過程で設立の目的と意味について何度も話し合いました. MLの目標は学術的發展のためのネットワーク構築にあります. 作業科学に関する情報を広く知らせる方法を検討し, 全国の勉強会組織などと連携できる環境づくりを目指します. 理事や院生が不在の地域では, 作業科学に関する解釈や知識を正しく理解しているのか, 学びの方向性が適切なのか不安を抱えて

いるかもしれません。これらの課題に対して当研究会はMLを活用して支援を目指しています。学びを深めることに関心がある方はぜひ参加されてください。多くの会員が待っています。

作業の研究や実践に関する情報交換だけでなく、作業に関する素朴な疑問、意見、感想なども歓迎致します。勉強会のお知らせなどにもご活用下さい。作業について知りたい、話したい、深めたいという思いのある方、是非ご参加下さい。JSSO-MLへの参加の手順はJSSO-HPの以下のページにて、日本作業科学研究会メーリングリスト利用規程をご確認下さい。<http://www.jssso.jp/>。利用規程にご同意下さる方は、件名を「JSSO-ML 参加希望」として、日本作業科学研究会広報委員の上江洲聖 (uezuse@gmail.com)宛に、メールをご送付下さい。

イタリア学会参加報告

“2nd Global Congress for Qualitative Health Research”に参加して

愛知医療学院短期大学 港 美雪

2012年6月28～30日まで、イタリアミラノのカトリック大学において“2nd Global Congress for Qualitative Health Research”が開催されました。本大会のトピックは、“Engaging People in Health Promotion & Well Being”でした。私は健康をテーマとした質的研究に興味を持っていたので、学ぶきっかけにしたいと思い参加を決めました。1日目にはいくつかのワークショップがありました。私は、イタリアミラノ大学のGiampietro Gobo教授による「質的研究におけるサンプリングと一般化の再考」と、グラウンデッドセオリーの開発者として著名なJuliet Corbin教授による「生データから理論まで」のワー

クショップに参加しました。Gobo教授は、数多くの質的と量的研究法による論文を発表し、また欧州でソーシャルリサーチ領域の研究者と質的研究のネットワークを立ち上げた方だそうです。ワークショップでは、数多くの研究事例を提示しながら、まさしくサンプリングの方法と一般化について問い直す時間になりました。参加者が3時間半1つのテーマに集中するという、とてもエキサイティングで素晴らしい時間となりました。Corbin教授のワークショップでは、まず研究デザインからの手順について詳細に説明する講義がありました。そして、グラウンデッドセオリーを使ったいくつかの研究論文についてグループで検討し意見交換する時間がありました。私はある論文の中で、研究者がコーディングの手順に工夫を加えていたことについてCorbin教授に質問をしてみました。すると、「柔軟に考えて研究者が行っているの、素晴らしい」と述べていらっしゃいました。研究では、基本をしっかりと行うことと、自分で考える思考力と発想力の常にその両方が必要であることを改めて実感する時間となりました。

2日目、3日目には、質的研究のテーマや研究テーマごとに分かれて発表がありました。参加者は、心理学、社会学、教育学、文化人類学の領域の研究者、そして医療や福祉の領域で支援に携わる人など、様々でした。私も、グラウンデッドセオリーによって作業科学研究に取り組んだ内容と、実践とのつながりについてポスター報告をしたのですが、今回の学会で強く感じたことは、研究と実践のつながりへ、強い関心が向けられていることでした。研究結果を実践につなげる、または実践しながら、研究を継続している多くの参加者と出会い、その情熱と地道な取り組みを知ることができました。日本から参加したある研究者は、やはり自らの疑問から研究と実践を続けていました。この方は、札幌で婦人科が

んのサポートグループを当事者と立ち上げ，その後ニーズに応じ，北海道の他の地域へも広げ，人との連携と取り組みを深め，多くの当事者の幸せな人生に欠かせない存在となっています。これまで私は，研究者が自らの疑問（現場の疑問）に誠実に向き合い，研究，そして実践へとつなげ，社会の発展や人々の幸せに貢献することは，理想であり目標であると考えてきました。しかし，それは作業療法士という立場で考えていたのだと気づきました。そうです，本来研究者であれば，当事者のニーズと研究を基盤として，自由で，発展的な取り組みにつなげることは，当然のことなのだと思います。

今回，この学会に参加したことによる多くの素晴らしい経験は，私が今気づいていない，たくさんのすばらしい未来の作業につながっていくと感じています。



カトリック大学構内



カトリック大学大講義室



ロービン教授（写真右）と私

JSSO 初めての研修会企画

JSSO は，今まで年1回のセミナーで作業科学の学習を続けてきました。本年度は，始めて研修会が開催されます。

担当する班は，現在熱いディスカッション中です。

皆さんのためになる研修会になるよう努力しております。

是非ご参加ください。

「作業科学にまつわる研究法」研修会

担当理事：酒井ひとみ・近藤知子

作業科学で行われる研究について知り，その進め方などに関する理解を深めることを目的にセミナー形式の研修会を開催します。詳細は，後日 H. P. に掲示します。

日時：2013年2月10日午後～11日午前

場所：愛知医療学院短期大学（愛知県清須市一場519番地）

受講費：1万円

定員：30人（先着順受付，20人以上で開催）

申込み・問い合わせ先：酒井ひとみ（E-Mail：hitontondream@yahoo.co.jp）

「実践につなげる研修会」

担当理事 西野 歩・西方浩一・港美雪

作業科学を勉強し始めたけれどもどうやって自分の臨床に役立てていけばよいかわからないという疑問を聞きます。

そんな方のための研修会です。

作業科学の知識を使って作業療法の実践をしている作業療法士の方々の話を聞き，その後自分の実践を振り返りながら，どのように作業科学の知識を自分の実践に生かすかを考えます。

日時：平成23年12月16日（日）

場所：（専）社会医学技術学院（東京都小金井市中町2-22-32）

申し込み：事前申込制になります。

詳細は後日 JSSO の HP に掲載されます。また，JSSO のメーリングリストでも情報をお伝えする予定です。

編集者からのお知らせ

お知らせなど，このニュースに掲載したい記事がある会員は，西野歩 nishino@sigg.ac.jp まで，お送りください。ニュース発行は年2回の予定です。

担当理事 西野 歩

